



■流山IC中心部流通センター 完成予想図

物流企業の流山ロジック 開発許可取得で月内着工 16万㎡超の大型物流施設建設

物流企業の流山ロジック、東京都市開発などが出資する特定目的会社(SPPC)「流山ロジスティック」(東京都港区赤坂)は、流山市の常磐自動車道・流山インターチェンジ(IC)近くの市街化調整区域約7・4畝に延べ床面積約16万3719平方メートルの大型物流施設の建設を計画していたが、開発許可が下りたことから、同社では

今年中に着工する方針を固めた。

11月27日付で関東農政局の農地転用許可および市の開発行為の許可が下りた。同社では、今月下旬にも建設予定地の造成工事に着手するとともに、建築確認の許可を経る。完成は08年7月の予定。

開発設計をグローバル

ブランド、建設予定地の造成工事を鹿島が担当。物流施設本体の施工者は決まっていない。

物流施設の建設が計画されているのは、千葉県流山市北西部に位置し江戸川に沿って広がる新川耕地区(約300畝)内の流山ICの中心部約7・4畝。同地はこれまで、良好な水田地域として利用されてきたが、農業従事者の高齢化や後継者不

足などにより、休耕田が増加しており、地権者から他の土地利用への転換を望む声が高まっている。

これを受け02年に市が新川耕地の有効活用計画を策定。常磐自動車道を流山ICの有効利用策として、ICに最も近い地区を産業系土地利用ゾーンに位置づけていた。この計画に沿って、同ゾーンのうち約7・4畝を所有する地権者が産業・流通施設などの誘致に乗り出していた。

農地転用許可と開発許

可が下りたことから、流山ロジスティックは地権者から土地を取得。建設予定地の所在地は同市大字上貞塚字寺下210の1ほか、自走式を取り入れた大型物流施設を建設する。建物規模は5階建て延べ約16万3719平方メートル、建築面積約3万3115平方メートル。農用地を造成するに当たって、当初、残土により埋め立てを予定していたが、その後、碎石により埋め立てすることに計画を変更したため、県の埋め立て許可は不要となった。